

リフレクションカード 2016年度後期

学科	生活創造学科
氏名	東 彩子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学Ⅱ	1	後期	必修	はい	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本講義は、本学の建学の精神である「感恩奉仕」の精神習得の出口の部分を担当しているため、キリスト教学Ⅰの聖書の学びから発展させ、幅の広い教養を身につけるため、多岐に渡る内容のキリスト教芸術と文学に触れ、視野を広げる授業展開を行った。また、授業以外のチャペルの参加や、教会訪問なども評価に取り入れ、授業外でキリスト教に触れる体験の機会を設けた。 ②昨年度からの改善としては、毎回の授業中、ポートフォリオでの学びの確認だけでなく、Bible Note作成を導入し、出席率でしか評価できなかったチャペルでの体験的な学びが、毎回のチャペルのコメントをノートに張りつけ、見直すことができるようになった。また、このBible Noteには、授業外で聖書を読んだ時のコメントなども記入できるようにし、予習・復習に取り組みやすい工夫をした。 ③昨年から開始したグループ発表の機会は、学生の関心にあわせて展開し、様々な角度からキリスト教について学びあう事ができた。 ④学期の最後に「感恩奉仕と私」というタイトルでレポートを書き、2年間のキリスト教の学びの集大成をひとつの文章としてまとめる作業を行った。これによって、学生が聖書やキリスト教教育の学びから何をうけとり、卒業していくのが良く見えるようになった。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された		やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	授業評価アンケートの結果より、知識理解に関しては4.2ポイントであった。トータルの成績の平均値は約80%以上。チャペルの出席率約76%以上とコメントカードの内容、教会訪問の出席率約90%以上と感想文の内容から、感恩奉仕の価値観を学び、聖書の視点を知り、キリスト教の源泉に触れるという、教育目標はやや達成されたと言えよう。 また、「感恩奉仕と私」というテーマの学生のレポートの内容から、90%以上の学生が、聖書について、キリスト教について、人生の基盤となるべき学びができたとのことから、全体をととして教育目標が達成されたと言えよう。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①C P、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は本学の要となる聖書の内容を学ぶ「キリスト教学Ⅰ」の学びを踏まえ、展開している。聖書の学びを前提としての発展的な学びであるが、全体的に一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②D P、行動目標からみでの内容的妥当性 著名な西洋の文学作品・芸術作品鑑賞を、聖書を土台として考察し、キリスト教に関連するテーマをグループで調査・発表するという行動目標については、昨年度に引き続き新しい試みであったが、講義だけでなく、グループでのアクティブラーニング形式を取り入れたため、学生自らで習得した内容も多く、内容的に妥当であったと考ええる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	Bible Noteをキリスト教学Ⅰより導入したが、未だ、使用方法の指導が徹底しておらず、キリスト教学Ⅰに引き継いで使用する際、ノートの内容にかなりのばらつきがあった。2年間のキリスト教の学びの集大成として作成していきたいので、今後は授業外の予習・復習などで用いる事、チャペルのコメントカードを貼付け見直すことなどを、徹底していきたい。 本講義は、興味のない学生にも興味をもってもらうことが重要である。授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が4.2であったが、引き続き、アクティブラーニングの手法を工夫しつつ、学生たちが自ら聖書を開いて、日常生活に応用できるような仕組みを作りたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①必修科目の位置づけであり、本学の要となる「感恩奉仕」の集大成として学ぶ科目であるが、キリスト教学Ⅰを発展的に展開していく上で、Ⅰでの学びが重要である。Ⅰの復習もⅡでの講義に加えつつ、学生が主体となって行うディスカッションや調査・発表を取り入れ、学生が主体的に授業を展開できるように促している。授業の最後に記入するポートフォリオやチャペル出席・教会訪問に加え、それらの学びをひとつのノートに記録できるようBible Noteを作成し、さらに関心あるテーマについてグループで調査・発表し、最後に「感恩奉仕」とは自分にとってどのような意味を持つか、自分自身の心を洞察していく作業をおこなったため、前年度より、内容が深まったと言えよう。引き続き、学生の興味関心を引き出し、「感恩奉仕」について日常的に考えることができるよう促すことが課題である。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	生活創造学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
心理学Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1年次に「心理学Ⅰ」を学習している。昨年度の反省点でもあり不十分であったに「心の健康法や心理療法の基礎知識を学ぶ」を捕捉しながら講義を組み立てた。特に今期は「学生との対話型講義の実践」に取り組んだ。ワークを取り入れることで学生の興味関心を高めた。自由記述などや日々の対話などから一定の効果を上げたと感じている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎回の授業評価を出席カードの裏面に「◎・○・△」の3段階評価で記載して回収している。9割以上が◎の評価を下している。このことからかなり意欲的に毎回の講義に取り組んでいることが推察できる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	心理学の基本的な知識に加え、その応用と現実生活への適応を目指してカリキュラムに位置付けられていると認識している。この点で学生との対話の中から、例えば恋愛や親子関係上での変化や洞察が多く語られている。これらから十分にカリキュラムマップじょうの使命を果たしていると自負している。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

図書館に多く通うように励ましたが、講義中に「しらべ学習」として組み入れてなかった。図書館は大学の心臓部でその空気感に触れさせることも大事と考えていたが果たせなかった。この点向学心の強い学生に期待に応えられなかった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

次年度の課題は多い。一つは対話型講義の充実。2点目は学習課題への意欲の喚起の工夫。3点目は心理学の応用力。特にストレス過多の現実社会で生き抜くためのタフなマインドを養成するための具体的スキルの提示。いじょうの3点を次年度に向けて工夫を重ねたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	生活創造学科
氏名	小池 順一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
日本国憲法	1	後期	選択	いいえ	22

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、生活創造学科の専門科目ではないため、受講生の知識量は多くはないが、興味は深く持っていた。そこで、新聞、マスコミ等で報道される事例を中心に授業をした。さらに、質問用紙を配布したり、直接口頭で質問を受け付けるなどして、双方向の授業を心掛けた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	学生の到達度自己評価を見ると、「自分なりの目標を達成した」については、3.2。「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」については、3.5という評価であったから。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	受講動機として、単位取得のためとするものが12と多かったが、関心のある内容であるとするものも11であった。職業倫理や行動規範について学ぶことができたかについては、3.3。事象を理解する視点や考え方を得ることができたかについては、3.4と内容的妥当性には問題ないと思える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

マスコミで取り上げている時事的なテーマを適宜挿入した点は良かった。学生に口頭で質問し、双方向の授業を心掛けた点も良かった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

適宜口頭での質問をし、その点について解答する。学生の興味ある点は何か、質問するなど双方向の授業を心掛けた点は良かった。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	生活創造学科
氏名	柳澤 伸一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
歴史学	1	後期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機では、「関心のある内容である」を挙げた者が55%、「単位数を確保する」を挙げた者が46%であった。積極的な受講姿勢を期待できる者と必ずしもそうでない者とに二分される状況の中で、現代の都市問題に都市の歴史的な在り方が係わっていることを絶えず指摘して、都市史を学ぶことの現代的意義を捉えることができたようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	やや達成された		どちらともいえない		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績は、秀25%、優25%、良33%、可17%と拡散した。到達度自己評価で、「知識を確認、修正、新たにえることができた」、「事象を理解する視点や考え方をえることができた」の項目は3. 2、「専門分野について、学びを深めたいと意欲を持つことが出来た」の項目は3. 0であった。成績と同様、到達度自己評価の諸項目でも、回答の選択が「少しそうでないと思う」から「かなりそうだと思う」まで拡散した。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、一般教育科目で、DP1、3に係わる位置付けがされている。到達度自己評価に関する上記の結果から、一応、内容的妥当性があったとは思いますが、回答が拡散し、到達度自己評価が低い学生があったことは、内容的妥当性に不十分さがあったことを示している。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業は、毎回、テーマに沿ってレジュメ１枚と関連資料数枚を配布し、基本的に講義形式で進めた。資料の作成に当たっては、欧米と日本の現在の都市問題と歴史都市の在り方との関連が捉えられるように心がけた。講義の中で出たキーワードについて説明を求めるレポートを課したことは、受講生の理解を深める上で有益であった。予習・復習に関しては。学生任せにしたきらいがあり、３０分以上の予習・復習を４、５回以上した者もいたが、大方は２、３回以下にとどまった。教員には、予習・復習について課題を具体的に与える姿勢が求められた。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	高校までの世界史・日本史の履修を前提に、ヨーロッパの歴史都市と日本の歴史都市との相違について新しい知見を与えることはできたと思われるが、アクティブラーニングを促す工夫には改善の余地がある。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度後期

学科	生活創造学科
氏名	篠木 賢一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
スポーツ・健康科学概論	1	前期	必修	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は卒業必修科目であり、学生は全員受講している。対象学生は1年生(後期)で、大学に入学し生活環境の変化等があり、学生自身の生活習慣の見直しや健康管理の重要性を理解してもらうために、学生の興味のあるダイエットや美容に関連する内容を取り入れた。教室での講義だったが、実際に学生が運動を行い測定をしたりして理解が深まるように工夫した。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均は79.3点 (S-9、A-4、B-10、C-7)である。半数以上の学生がBまたはCを取得していることから、目標達成状況はどちらともいえない。小テストの得点を見てみると60点を下回る学生もいたことから、説明等を丁寧に行い通年で行われているスポーツ科学実技の授業でも健康等について引き続き指導していく必要があると思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「一般教育科目」における「自然科学系」に位置づけられており、卒業必修科目である。成績評価を見てもほとんどの学生において現段階での課題はほぼ達成されており、内容的には妥当であったと考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

教師からの一方的な講義にならないように、グループワークや学生が発言できるような内容で授業を行った。それにより学生が考えて発言・行動する姿が見られたが、発言する学生に偏りがみられるため、すべての学生が発言しやすい環境づくりができるように検討していきたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

学生の授業への取り組みや評価結果を見ると、授業の目的は概ね達成されたと考えられる。この授業は教室で行うため、実際の運動や生活習慣に繋がっていきけるように他の科目でも指導を行う必要があると思われる。また、授業だけではなく卒業後も学生が得た知識を生かすことができるような展開を心掛けていきたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	生活創造学科
氏名	篠木 賢一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
スポーツ科学実技	1	通年	必修	いいえ	32

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は卒業必修科目であり学生は全員受講している。対象学生は1年生（通年）であり、この授業を通して運動・スポーツの意義を理解し、自己の体力を把握することが大切である。また、授業だけではなく、卒業後も生涯スポーツとして運動を続けてもらうために、さまざまな競技と行いルールや技術習得ができるように工夫した。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均は92.4点（S－23、A－5、B－1、C－1）である。ほとんどの学生がSまたはAを習得していることから、目標は達成されたと考えている。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「一般教育科目」における「自然科学系」に位置づけられており、卒業必修科目である。成績評価を見てもほとんどの学生において現段階での課題はほぼ達成されており、内容的には妥当であったと考えられる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	体力測定を前期の4月と後期の1月に行うことにより、学生自身が体力の変化を把握できるようにした。また、さまざまな競技においてゲーム形式だけではなく、技術習得のための練習を取り入れ、学生がお互いに教え合うなどの姿が見られた。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	学生の授業への取り組みや評価結果を見ると、授業の目的は概ね達成されたと考えられる。バレーボールやバドミントン等の競技だけではなく、フットサルなどの競技もできるように、環境や道具を整備したい。また、安全管理のために、今ある古い道具を新しくすることを検討したい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	生活創造学科
氏名	十時 康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語Ⅱ	1	後期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	受講動機は6割の学生は単位数のためと回答しているが2割程度が関心があるからと答えている。 初回の授業アンケートでも「英語が苦手だが好きだ」旨のコメントも見られた。 しかしクラスの中で英語力に大きな開きがあることは前期からわかっていたので、後期は各自のペースでテキストを読み進めていける仕組みを作って授業を進めた。これは少人数のクラスの利点であったと思う。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終成績の平均は72点でB以上の成績を修めた学生は8割以上であったので、知識理解の点では達成されたといつてよいだろう。 音読を授業で行ったが「読む」力にはばらつきが残ったままになってしまった。一方でディクテーションを毎回行ったが、少しずつではあるが成長が見られた。よって技能表現は「やや達成された」とした。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	教養科目としての位置づけであることから専門分野との関連づけという点では難しいものがあった。学生の到達度自己評価を見ても中央値が3点で平均値も3点台の後半であったことから、上記を裏付けている。それでも「自分なりの目標を達成した」「知識を確認、修正したり、新たなに得ることができた」という点では中央値4点と平均値は3点後半～4点という評価であった。 以上より内容的妥当性に関しては問題がないと判断する。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価ではすべての項目で中央値4点、平均値もほぼ4点台なので授業の進め方、説明のしかたという授業パフォーマンスの面では問題が なかったと思う。 学習量の評価でも予習復習も行っており、記録作成でも学生はなんらかの方法で授業ノートをとっていた。 図書館の利用に結びついていないようなので、テキスト内容に沿って学生に追加で調査を課すなどの方策が必要である。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	少人数で、クラスの雰囲気も明るいものであったので、質問を気軽にできる雰囲気作りは成功した。学生からの質問に応えつつ授業をスムーズに進め ることができた。おおむねよい授業ができたと評価できる。 あとは学生の専門分野との関連を強めることが課題である。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度後期

学科	生活創造学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
日本語表現法	1 (2)	後期 (前期)	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	ことばの大切さを自覚し、日本語を通して日本文化についても、認識を深めることが出来る様な授業展開をめざした。そのためには、文章の書きかた、および話し方の基礎を習得すること、を第一目的とし、そこから反映する現代の、言葉の課題、現状の若者言葉等々を探りあげて、討論しながら、学びを深めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	行動目標は、まずまず達成されたと評価している。何よりも、一人ひとりの学生が講義中、よく質問をし、意欲ある姿勢で、講義に臨んでいた事には、感心させられるものがあった。たとえ、点数がそこそことしても、この真面目さと、意欲によって、延びてゆくものであることは保証されると、解釈している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	自主的に取り組んでいるので、内容的に妥当性があると思う。 行動目標から見ての、内容妥当性については、学習への熱意、受講動機から考えても、内容的に妥当性があると思う。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

講義の進み方に関しては、受講者の人数によるものも大いにあるが、出来得る限り、学生と、私自身との、マンツーマン教育に力を入れ、添削を軸に、しっかり学生と向き合って、懇切丁寧な指導ができればと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

磨きのかかった表現をものにするには、一両日で出来るものではないが、学習の方法を、楽しく、意欲的に、捉えられるべく、考えた講義体系でなければと思う。いま、実行している講義方法も、日々検討しつつ、改善を重ねてゆくつもりである。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	生活創造学科
氏名	谷崎 太

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ボランティア演習	2	前期	必修	はい	28

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	○	○	○	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	・受講動機は次の通り。①必修科目である92.6%、③関心のある内容である11.1% ・学科における必修科目である。 ・地域への貢献を体験し、地域と自分の関わりについての考察に及ぶように促した。 ・社会参加に対しての自分なりの意識をもつように促した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された		達成された	達成された	達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・期末の成績評価は、平均88.2点／100点であった。再試対象者は0名であった。 ・到達度自己評価の項目中、次の点が平均値4.0で最も高いスコアであった。(1)自分なりの目標を達成した (2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた ・到達度自己評価の項目中、次の点が平均値3.6で最も低いスコアであった。(10)職業選択の参考になった					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・学科のDPの(DP2:思考判断)(DP3:意欲関心)(DP4:態度)の基礎部分を担う必修科目として開講している。 ・受講動機、学習到達度の自己評価の結果から判断して、内容の妥当性に問題はないと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に 単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	・授業の質評価の5項目についてのスコアは4.0～3.0であり、概ね意図した授業が実施できたと考える。 ・学習量の評価では、予復習、自発的学習が殆どなされていないことが示唆される。予復習に関する個別具体的指示を行う、および予復習、自発的学習の効果を検証する仕組みを工夫するなどの余地があると思われる。 ・図書館等の利用は、ほぼ行われていなかったが、初学者向けの科目であるので特段支障はない。ただし、理論が身近な場面で活用されている事例等を参照するなどを促すことも学習の深耕に資すると思われる。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	・当科目によるDP上の意義は概ね達成されていると考える。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	生活創造学科
氏名	領木 信雄

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生活創造論	2	後期	必修	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	開講前のゼミ説明会で内容について丁寧に説明を行ったため、内容に興味のある学生が受講した。 関連する科目である「生活創造演習」での内容と連動して、社会での位置づけ・分野の歴史・様々な手法と比較しての利点/欠点などについて理解できるようにした。それらを踏まえて、個人で意見を考えさせるようにした。 時間をかけて段階的にレポートの作成を進めるようにした。また、細かく添削も行った。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績評価はレポートで行った。まじめに取り組んでいる学生の大半が理想的なレベルに達していた。 学生による「到達度自己評価」においては、全ての項目について「まあまあそうだと思う」～「かなりそうだと思う」を選択しており、目標達成状況は概ね良いと言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1. CP・カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は専門科目の必修科目（担当教員を選択）である。カリキュラムツリーにおいて「キャリアおよび社会参画について学ぶ」科目として、内容的に妥当であると考えます。 2. DP・行動目標から見ての内容的妥当性 コンピュータのプログラミング分野について広く扱ったので、特に「情報に関する基礎的な知識と理解を有している」「読む、書く、調べる、計算する、自分の考えや感性で表現し伝えるといった基礎学力を備えている」について、内容的に妥当であると言える。 3. まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと言える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

図書館にも関連図書を購入していただいているので、利用される頻度が上がるよう、紹介するようにしたい。
復習を行っている受講生が少ないので、復習のポイントを示すようにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

達成状況は概ね良いと言える。
より充実したレポートを作成できるよう、内容について発表や議論をする機会を増やすようにしたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	生活創造学科
氏名	木村 久江

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活創造論	2	後期	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①「生活創造論」は必修科目であるが、食に興味を持つ学生が受講するため学修意欲が高いことが窺える。 ②1年生と2年生前期に食の基本を修得し、すべての知識が応用できるように進めた。 ③授業前に図書館で文献や図書などで調べ、生活創造演習の導入として計画を作成してから授業に参加させた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①定期試験ではなく毎回のレポートを課題としている。成績としては理想レベルに(概ね90点以上として)に全員が達していた。 ②学生の授業評価アンケートから、「自分なりの目標を達成した」と回答に関しては平均値4.7、中央値5.0であった。多くの学生が原理を理解し、生活創造演習に結びつける為に創意工夫を行ったと考えられる。知識理解に関しては平均値4.4、中央値5.0であった。知識を確認、修正したり新たに得ることができ、それぞれの学生の自信に繋がったと考えられる。また、意欲関心についても学びを深めたいと意欲を持つことができたと思える。そして、技能表現 (DP5) に関しては、平均値4.3～4.7、中央値5.0であった。必要な技術が身につく、それぞれのコミュニケーション力や表現力をも身につける事ですぐに実践できることを体得したと考えら、これらのことは、学生の自信に繋がったと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「生活創造演習」と連動しており、「生活創造論」の授業で原理を理解し作成方法や計画を立てる為の基礎として重要な位置づけの「必修科目」である。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 到達度自己評価から、学ぼうとする専門分野で必要となる技術の修得ができたと思える。また、これを用いて創意工夫し、自分なりの表現力を高められたとする評価が多かった。内容的には妥当と考える。 ③まとめ 以上から、内容的には妥当であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①「授業の質の評価」では、いずれも平均点で、3.8～4.2と大きな課題はないと思われる。特に（4）の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなどの学生が参加する機会が作られていた」項目では平均値4.1、中央値4.0の評価で、地域貢献として発表する機会は学生の自信に繋がるだけでなく、貢献感や所属感を育む良い効果であると思われる。受講意識も高くなり学生と教員間の信頼関係が増すと思われる。また、（5）の「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」項目では平均値4.5、中央値5.0と評価が高く、作成方法や計画を変更せざるを得ない場合など学生とのコミュニケーションを図ってきた。それに加えてそれぞれの学生の理解度を把握したり、質問や手助けが必要な学生には適切な説明してきた。②今後も 原理などの基本を修得した上で実践ができる授業を進めていきたい。 ③学術データベースやインターネットのHP検索、図書館の利用については学生の利用が少なかった。今後は利用者を増やすように心がけたい。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①本科目は「生活創造演習」と連動しており、「生活創造論」の授業で原理を理解し作成方法や計画を立てる為の基礎として重要な位置づけの「必修科目」である。授業の達成度自己評価においても、概ね平均値4.2～4.7、中央値も5.0であり、期待した修得ができたと考える。 ②授業を通じてDPIにある、衣食住に関する基礎的な生活技術を修得し、今後のみずからの生活に創意を加えて活用することについても概ね達成できた。（地域貢献としての学外発表など） ③今後の改善点として、授業以外でも、学生の食に関する質問を受ける場を増やし工夫していきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	生活創造学科
氏名	領木 信雄

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生活創造演習	2	通年	必修	いいえ	13

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	開講前のゼミ説明会で内容について丁寧に説明を行ったため、内容に興味のある学生が受講した。 経験のないソフトウェアの使い方からになるので、手順を細かく記した配布資料を用意し、1ステップずつ追っていけるようにした。また、制作例を多く示し、基本的な考え方や操作方法を習得した後は自分で試行錯誤して制作できるようにした。 制作した作品の発表を行い、受講生同士で評価を相互に行えるようにした。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績は提出された課題から評価した。受講生12名中10名がS～Aの評価で、受講生の大半が理想的なレベルに達していた。 学生による「到達度自己評価」においては、ほとんどの項目において全員が「まあまあそうだと思う」～「かなりそうだと思う」を選択しており、目標達成状況は概ね良いと言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1. CP・カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は専門科目の必修科目（担当教員を選択）である。カリキュラムツリーにおいて「キャリアおよび社会参画について学ぶ」科目として、内容的に妥当であると考えます。 2. DP・行動目標から見ての内容的妥当性 コンピュータのプログラミングにより作品をつくることから、特に「情報に関する基礎的な知識と理解を有している」「読む、書く、調べる、計算する、自分の考えや感性で表現し伝えるといった基礎学力を備えている」について、内容的に妥当であると言える。 3. まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと言える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

図書館にも関連図書を購入していただいているので、利用される頻度が上がるよう、紹介するようにしたい。
復習を行っている受講生が少ないので、復習のポイントを示すようにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

達成状況は概ね良いと言える。
課題の自由度が高いので、アイデアを広げるための時間をとるようにしたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	生活創造学科
氏名	木村 久江

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活創造演習	2	通年	必修	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①「生活創造演習」は必修科目であるが、食に興味を持つ学生が受講するため学修意欲が高いことが窺える。 ②1年生と2年生前期に食の基本を修得し、「生活創造論」の科目と連動し作成方法や計画を立て実践するためにすべての知識が応用できるように進めた。 ③授業前に図書館で文献や図書などで調べ、計画を作成してから授業に参加させた。 ④地域貢献活動の基本を学び、貢献感や、所属感を活動を通して体験させる。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①定期試験ではなく毎回のレポートを課題としている。成績としては全員標準的レベルに達し、理想レベルに（概ね90点以上として）にも全員の学生が達している。 ②学生の授業評価アンケートから、「自分なりの目標を達成した」と回答に関しては平均値4.8、中央値5.0であった。すべての学生が「生活創造論」で原理を理解し、この科目に結びつける為に創意工夫を行った為に高い評価が得られたと考えられる。知識理解に関しては平均値4.7、中央値5.0であった。知識を確認、修正したり新たに得ることができ、それぞれの学生の自信に繋がったと考えられる。また、意欲関心についても学びを深めたいと意欲を持つことができたと思える。そして、技能表現 (DP5) に関しては、平均値4.6、中央値5.0であった。必要な技術が身につく、それぞれのコミュニケーション力や表現力をも身につける事ですぐに実践できることを体得したと考えられ、これらのことは、学生の自信に繋がったとともに貢献感や所属感が養われた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「生活創造論」と連動しており、「生活創造論」の授業は原理を理解し作成方法や計画を立てる為の基礎として修得した上で、本科目は実践としてすべての事柄が応用できる重要な位置づけの「必修科目」である。 ②DP、行動目標からみても内容的妥当性 到達度自己評価から、学ぼうとする専門分野で必要となる技術の修得ができたと思える。また、これを用いて創意工夫し、自分なりの表現力を高められたとする評価が多かった。内容的には妥当と考える。 ③まとめ 以上から、内容的には妥当であったと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について 授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①「授業の質の評価」では、いずれも平均点で、3.8～4.3と大きな課題はないと思われる。特に（4）の「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなどの学生が参加する機会が作られていた」項目では平均値4.5、中央値4.0と評価が高く、地域貢献として発表する機会は学生の自信に繋がるだけでなく、郷土愛を育む良い効果であると思われる。受講意識も高くなり学生と教員間の信頼関係が増すと思われる。また、（5）の「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」項目では平均値4.3、中央値4.0の評価で、作成方法や計画を変更せざるを得ない場合など学生とのコミュニケーションを図ってきた。それに加えてそれぞれの学生の理解度を把握したり、質問や手助けが必要な学生には適切な説明をしてきた。 ②今後も原理などの基本を修得した上で実践ができる授業を進めていきたい。 ③学術データベースやインターネットのHP検索、図書館の利用についても、学生が利用が少なかった。学生の利用が多くなるように心がけたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題 達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①本科目は「生活創造論」と連動しており、「生活創造論」の授業で原理を理解し作成方法や計画を立てる為の基礎として修得した上で、本科目は実践としてすべての事柄が応用できる重要な位置づけの「必修科目」である。授業の達成度自己評価においても、概ね平均値4.1～4.8、中央値も4.0～5.0であり、期待した修得ができたと考える。 ②授業を通じてDPIにある、衣食住に関する基礎的な生活技術を修得し、今後のみずからの生活に創意を加えて活用することについても概ね達成できた。（地域貢献としての学外発表など） ③今後の改善点として、授業以外でも、学生の食に関する質問を受ける場を増やし工夫していきたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	生活創造学科
氏名	桑野 嘉津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
子育て論	2	後期	選択	いいえ	20

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目の受講動機は最も多かったものが「関心のある内容である」55.6%、「単位数を確保する」が50.0%、次いで「友人が履修している」5.6%だった。初回の授業に実施した学習準備状況の確認のためのアンケートには「将来親になって子どもを育てたいと思っている」と全員が回答して子育てについての学びに高い意欲を示した一方、これまで赤ちゃんの世話をした経験をについては「ほとんどない」という状況だった。そこで子育てについて具体的なイメージを持てるように映像を用いたり、可能な限り具体的に学べるように授業計画を立てた。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	やや達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終試験の結果は全員が合格点に達した。本試験は記述形式であったが、学び得た知識をもとに自分なりの考えをしっかりとまとめることが出来ていた。テーマごとに課したレポートにおいてもしっかりと書かれ、知識理解と意欲関心については概ね達成されたと判断されるレベルであった。ただ子育てにおける「思考判断」は実際に子どもと関わり様々な課題を乗り越えていくことで深まるので現時点では「やや達成された」という評価が妥当であると考ええる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は選択科目で、授業準備の欄で指摘したように半数が受講動機を「単位数を確保する」と答えていた一方、子育てへの興味関心は高く学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 それぞれの課題について高い割合で達成したことことから、内容的には妥当であったと考える。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

これまで赤ちゃんの世話をしたり小さな子どもと関わった経験の少ない学生が子育てについて具体的なイメージが持てるように絵本の読み語りや手作りおもちゃ、チャイルドビジョンの作成などを取り入れたことで学生の意欲関心を高めることができたと思う。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

目標達成状況や評価結果をみると概ね授業の目標を達成できたと思う。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	生活創造学科
氏名	木村 久江

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品加工実習	2	前期（後期）	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①2年生後期の「食品加工実習」は選択科目であり、食のコースを専攻している学生やフードコーディネーター資格取得を目指す学生には重要であるが、それ以外の学生の受講動機はそれぞれ違っている。受講動機から見ると「単位数を確保する」72%、「関心がある内容である」29%に分かれ、授業に関心がある学生が低いことが窺える。このことは食品加工実習についての関心の低さが窺えとともに日本古来の伝統食品の味噌やパンなど日常では購入することが大半な項目を自ら作ることに興味が無いことが考えられる。よって興味を待たせることを念頭に置き学修意欲がより高くなるように配慮した。 ②「食品加工実習」授業は1年生の「調理の基本」や「応用の調理」を修得し、安全かつ衛生的に調理操作ができるようになった。食品加工実習の特徴として発酵の為に長期間保存をする工程など食品衛生管理に特に重点をおいた。日常生活の中で長期保存の為に調理に携わる経験が未熟なため、基本を再確認させることに努力した。③発酵、保存、ろ過、攪拌、煮沸殺菌、冷却などの複雑な加工操作を体得させ、食品加工の原理を理解し食品が安全に加工されることで成功体験ができ自身につながる。加工に関する全てのことに興味を持たせ、実習授業だけでなく日常的に市販品を購入するのではなく自ら実践して食品加工に関心を持つように進めている。④週に1回の実習授業のため、実習前には、図書館で調理用語などについて予習をし、実習後には、復習の意識を高める為に授業で学習した加工食品を自宅で再現できる食品は加工し、食品加工が日常的な行為であることを体得させることに努力をしている。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された					達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①食品加工実習授業である為、定期試験ではなく毎回のレポート等を課題としている。学生全員が15回のレポートを提出し、最終的な成績としては、平均値は81点で標準的レベル達したが、その中で理想的レベル（概ね90点以上として）に達しているものはなかった。 ②学生による授業評価アンケートから、「自分なりの目標を達成した」と回答に関しては平均値4.4、中央値5.0であった。多くの学生が原理を理解し創意工夫を凝らし修得したものと考えられる。知識理解に関しては、平均値4.4、中央値5.0で食品加工の知識を確認、修正したり新たに得ることができ、それぞれの学生の自信に繋がったと考えられる。また、意欲関心に関しても、「食品加工実習」の学びを深めたいと意欲を持つことができたことが窺える。そして、技能表現 (DP5) に関しては、平均値4.3、中央値4.0で食品加工技術やおもてなしができる表現力が身につく、食品の加工技術が容易に実践できることは学生の自信に繋がったと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の2年後期に行う「食品加工実習」として様々な加工食品の加工に関する原理や加工方法を理解する為の重要な位置づけとしての選択科目である。 ②DP、行動目標からみても内容的妥当性 到達度自己評価から、学ぼうとする専門分野で必要となる技術の修得ができたと思う。また、これを用いて創意工夫し、自分なりの表現力を高められたとする評価が多かった。内容的には妥当と考える。 ③まとめ 以上から、内容的には妥当であったと考える。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質の評価では、いずれも平均点で4.3と大きな課題はないと思われる。 ②実習授業の為、必ず師範の見本操作を視覚を通して理解させることに努力してきた。特に実習中は机間巡視を行い各班の理解度を把握したり、質問や手助けが必要な学生に適切な操作を説明し、コミュニケーションを図ってきた。今後も安全かつ衛生面に留意し、授業を進めていきたい。 ③学術データベースやインターネットのHP検索などは、利用者が少なかった。図書館の利用については、毎回の課題レポートに図書館の図書で調べることを課題にしているが利用者が少なく今後はさらに図書活ユーザーを拡大したい。 ④学習量の評価における「個別コメント」においても、課題以外に取り組んだ学習としては①レポートを書くことで復習できた。②料理をした。③資料探しをした等記述があった。家庭で実際に料理を作ったとの記述が見受けられ、「衣食住における基礎的な生活技術」を得てそれを自分の創意を加えて実践できている学生もあり、授業の進め方も概ね妥当と考える。 ⑤食品加工実習の授業を今後とも学生の身になる授業を進めていきたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①本授業は、選択科目であり、2年生後期に行う「食品加工実習」の様々な加工食品の加工に関する原理や加工方法を理解し修得する為の重要な位置づけである。 授業の達成度自己評価においても、概ね平均値4.3～4.4、中央値も4.0～5.0であり、期待した修得ができたと考える。 ②実習などを通じてDPにある、衣食住に関する基礎的な生活技術を修得し、今後のみずからの生活に創意を加えて活用することについても概ね達成できた。（授業以外の家庭での食品加工料理の実践など） ③今後の改善点として、授業以外でも、学生の食に関する質問を受ける場を増やし工夫していきたい。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	生活創造学科
氏名	富田 純史

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ライフステージと健康	2	後期	選択	はい	16

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. ライフステージと健康の講義は選択のため学生の受講動機や学習背景が様々である。このため本講義では、母子保健、学校保健、精神保健、産業保健、老人保健、（一部食品衛生関連を含む）までの問題点と疾病予防について、グローバルな視点を加えて、学生ひとり一人が興味をもてるようになることを大切にしている。 2. 抽象的な講義にならないように、身近でわかりやすい配布資料に加えパワーポイント・ビデオなどの視聴覚教材を準備した。 3. 講義時間の配分に留意し、（１）前段、（２）配布資料と黒板による説明、（３）視聴覚教材による補完説明、（４）今回・前回までの講義関連事項に関する疑問やコメントへの回答と説明を行った。 4. 講義関連事項に関する疑問・コメントについては、講義直後に整理分類し、口頭だけでなくパワーポイントなども作成して次回での回答・説明に備えた。 5. 昨年度からの改善点としては、講義中に学生への質疑を加えるようにした。 6. 授業評価においては、単なる知識だけでなく本講義を通じて“早期発見早期治療”だけでなく“一次予防”の大切さについての理解をみた。このため、定期試験だけでなく全講義の後に実施していたコメントカードの記載内容にも重点をおいて評価した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された			達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. 定期試験の結果は大部分の学生が８０点以上の満足すべき結果を示した。 2. 早朝からの講義にも拘らず、欠席・遅刻がほとんどなく本講義への興味の向上を示した。このため、登録学生で失格になったものはいなかった。 3. コメントカード記載内容は、講義の進行とともに量的・質的に増加し、講義内容関連事項への質問・コメントも増加した。 4. 学生による授業評価においては、一部に予習・復習が不足している学生の存在が示された。卒業年次で就活や必須科目取得の多忙さも考慮しながら、次年度では、関連資料の収集やまとめなどのテーマを与えることを検討したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1. CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本講義は卒業年次における教養として選択、学科横断的位置づけにあるため、学生の本来の興味や教育背景が異なる。このため、“早期発見・早期治療”だけでなく、“一次予防”の大切さを様々な角度から考え理解させることが望ましい。全学生の出席率だけでなく各講義後のコメントカードの記載内容、定期試験結果には満足すべきものがあり内容的に妥当であったと評価する。 2. DP、行動目標からみでの内容的妥当性 講義内容に興味をもつことにより専門的な知識も増加していることが各講義後のコメントカードの記載内容、定期試験結果に示されており内容的に妥当であったと評価する。 3. 以上により、本講義の内容的妥当性には問題ないと思う。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	1. 授業の進め方については、各年度での結果をもとに改善してきたことにより一定の自己評価をしている。 2. 入学年度により学生の志望動機、教育背景と在学後における将来への希望が多様化している。このため、教育内容のレベル設定にはさらに工夫を行いたい。即ち、全体として視覚的にもわかりやすい構成の中により詳細な専門的なものを加えて行きたい。 3. 予習・復習については卒業年次であることと他の必須科目の単位取得、資格試験準備などを考慮し身近な材料を取り上げて実施させるようにしたい。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本講義は、学科横断的教養選択科目であるが、他の専門科目への学習意欲の向上と知識・理解の補完となるように設定している。講義中のコメントカード記載内容と定期試験結果から、これらの目標は概ね達成できたと総合的に評価している。しかしながら、入学年度により対象となる学生の志望動機、教育背景と在学後における将来への希望が多様化しているため、講義開始直後に各学生の講義への反応を注意深く観察することでその後の講義内容へ反映させることが重要だと考える。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	生活創造学科
氏名	藤田 稔子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
女性と健康	2	後期	選択	いいえ	8

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は、完全な選択科目であるため、受講生も少ないが、半数が「関心のある内容である」という受講動機であった。本科目は、前期に同学科1年生で開講したが、興味関心の事項が異なっていたため、シラバス通りに授業を展開しましたが、内容や方法を受講生に合わせ実施しました。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	到達度自己評価によると全項目で「かなりそうだと思う」(8名中5名)、「わりにそうだと思う」(8名中2名)、「まあまあそうだと思う」(8名中1名)であるため、受講理由にしては、関心を持って受講し、目標達成に努力していたように感じます。現に、各回の課題は全員が真剣に取り組み、完成度の高い出来でありました。最終のレポートもよく考察し記述されており、授業をしっかりと聞いてくれた成果が表れています。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は旧カリキュラムの1科目です。そのため、「健康」という観点を新カリキュラムと比べれば色濃く授業をしたと思っています。そのことから、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけを考慮したことから内容的に妥当であったと考えます。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	できるだけ負担を減らすべく、課題は最小限に留めました。しかし、各回、必ず予習と復習になる課題は課しています。授業評価アンケートの学習量は8名中7名が準備をしたことがないと回答していますが、毎回、予習として課した課題は全員こなして授業に臨んでいました。また、最終レポートもしっかりと記述し、記述にあたっては、資料等もそろえるなど、授業に対する準備状況は良好でした。
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	回を重ねるごとに、質問の内容もより具体的で自身の関心の高い、もしくは不安に感じていることを投げかけてくるようになりました。また、生活そのものに直結している内容であるため、意識の変化が見やすく感じました。私が気にならない事項であっても、学生がとても興味関心を持ったという瞬間が数多くありました。もし、次年度があったならば、より20代の生活に密着した内容をブラッシュアップしていきたかった、と思いました。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度後期

学科	生活創造学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
コミュニケーション基礎	1	後期	必修	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	講義の導入に工夫した。学生の今一番気にかかることを、表出できるように小紙片に毎回、書かせている。これに回答する形で講義を始めるようにしている。このことにより講義への興味と関心を高められるようだ。2年次のコミュニケーション展開につながるように対話力の応用力のトレーニングとして「聞き書き」の基礎的スキルを高めるワークや講義を細かく丁寧に取り組んだ。最後の評価結果を見ると高い学習効果が上がったことが示唆された。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の結果を見ると、ほぼ9割以上が高い評価を得ている。欠席傾向のある学生を除けば教育目標は達成されたものと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	内容の妥当性については到達度の自己評価や自由記述の記入から見て「人とのコミュニケーションのコツがつかめた」との思いを抱いた学生が多かった。平均以上の結果を出している。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の進め方には改善の余地があった。こちらの計画に従って進めることがほとんどであった。学生のスキルの進展に伴い柔軟に進路を進めても良かったようである。対話型の講義が私の目標であるが道は険しいものがある。次年度の大きな課題である

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

達成状況の総括的評価は「ほぼ満足」というところである。ワークは良いのだが理論的な話になるとどうしても集中力が切れる学生がいる。これらはどうするか、次年度の課題である。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	生活創造学科
氏名	谷崎 太

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
キャリアデザインⅡ	1	後期	選択	はい	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	・受講動機は次の通り。①必修科目である63.0%、③関心のある内容である、④単位数を確保する ・学科における必修科目である。 ・卒業後の進路、および自分の適性を考え、社会人としての意識をもつ準備を促すための授業を行った。 ・テキストは用いず、授業用に作成したスライド、配付プリント等を使用して解説を行った。 ・授業で示された手順、解説をノート等に記録し、それを予復習に利用することで、自発的学習に対応できることを想定している。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・期末の成績評価は、平均80.6点／100点であった。欠席過多による再履修者が1名であった。 ・到達度自己評価の項目中、次の点が平均値3.8で最も高いスコアであった。 ・到達度自己評価の項目中、次の点が平均値3.2で最も低いスコアであった。 (5)自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた (8)コミュニケーション力や表現力を高めることができた					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・(DP1:知識理解)(DP2:思考判断)(DP3:意欲関心)(DP5:技能表現)の基礎部分を担う科目として開講している。 ・受講動機、学習到達度の自己評価の結果から判断して、開講の意義は充足されており、内容の妥当性に問題はないと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	・授業の質評価の5項目についてのスコアは3.4～3.2であり、概ね意図した授業が実施できたと考える。 ・学習量の評価では、予復習、自発的学習が殆どなされていないことが示唆される。 ・予復習に関する個別具体的指示を行う、および予復習、自発的学習の効果を検証する仕組みを工夫するなどの余地があると思われる。 ・図書館等の利用は、ほぼ行われていなかった。コンピュータを利用した情報の作成・伝達に関する文献、資料を参照することを促すことも学習の深耕に資すると思われる。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	・当科目によるDP上の意義は概ね達成されていると考える。 ・予復習、自発的学習を促す工夫をする余地があると考ええる。 ・スタンダードなテキストを指定して、予復習、自発的学習に活用させてもよいかもしれない。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	生活創造学科
氏名	谷崎 太

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
コンピュータリテラシーⅡ	1	後期	必修	はい	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	・受講動機は次の通り。①必修科目である100.0%、③関心のある内容である11.0%、④単位数を確保する7.4% ・学科における必修科目である。 ・初学者の受講を想定して、テキスト、問題集の指定をした。 ・テキストの内容を理解、定着させるためには例題等による問題演習が不可欠となる科目であるため、コンピュータ操作の手順ならびに理論を解説した後、問題の演習を行う形で進めた。 ・コンピュータ操作の手順ならび理論の解説には、テキスト、授業用に作成したスライド、プリント等を用い、問題の演習には、テキストの例題、問題集を用いた。 ・授業で示された手順、解説をノート等に記録し、それを予復習に利用することで、自発的学習に対応できることを想定している。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された					達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	・前期試験を経ての成績評価は、平均79.5点／100点であった。再試対象者は0名であった。 ・到達度自己評価の項目中、次の点が平均値3.7で最も高いスコアであった。 (2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた ・到達度自己評価の項目中、次の点が平均値3.1で最も低いスコアであった。 (8)コミュニケーション力や表現力を高めることができた					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	・学科のDPの技能表現(DP5)の基礎部分を担う必修科目として開講している。 ・受講動機、学習到達度の自己評価の結果から判断して、開講の意義は充足しており、内容の妥当性に問題はないと考える。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン ターネット利用」学生の意見など	・授業の質評価の5項目についてのスコアは3.6～3.0であり、概ね意図した授業が実施できたと考える。 ・学習量の評価では、予復習、自発的学習が殆どなされていないことが示唆される。予復習に関する個別具体的指示を行う、および予復習、自発的学習の効果を検証する仕組みを工夫するなどの余地があると思われる。 ・図書館等の利用は、ほぼ行われていなかったが、初学者向けの科目であるので特段支障はない。ただし、理論が身近な場面で活用されている事例等を参照するなどを促すことも学習の深耕に資すると思われる。
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	・当科目によるDP上の意義は概ね達成されていると考える。 ・予復習、自発的学習を促す工夫をする余地があると考ええる。
-------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度後期

学科	生活創造学科
氏名	領木 信雄

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
マルチメディア基礎	1	後期	必修	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	経験のないソフトウェアの使い方からになるので、操作説明を書き込める資料を配布して、ゆっくり進めるようにした。また、基本的な操作方法を習得した後は自分で試行錯誤して制作できるようにした。 コメントシートを毎回提出してもらい、質問事項などをフォローできるようにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された					やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。		成績は提出された課題から評価した。大半の受講生が全ての課題を提出しS～Aの評価であった。 学生による「到達度自己評価」においては、多くの項目において「まあまあそうだと思う」～「かなりそう思う」を選んでおり、目標達成状況は概ね良いと言える。				
* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。						
＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1. CP・カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容的妥当性 本科目は専門教育科目の必修科目である。カリキュラムツリーにおいて「ITを活用する力」を学ぶ科目として、内容的に妥当であると言える。 2. DP・行動目標から見ての内容的妥当性 特に「他者とつながるために、自分の考えや感性を表現し伝えるといった力を備えている」について内容的に妥当であると言える。 3. まとめ 以上から、内容的妥当性に問題はないと言える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

制作物のイメージを描きやすいように、例を多く示せるようにしたい。
復習すべきポイントを分かりやすく示すようにしたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

達成状況は概ね良いと言える。
時間を調整して、制作したものを発表して互いに評価しあえるようにしたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	生活創造学科
氏名	木村 久江

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基本の調理Ⅱ	1	(前期)後期	必修	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①1年生後期の調理実習の授業は必須科目であり、フードコーディネーター資格取得を目指す学生には重要科目である。受講動機から見ると「必修科目」100%、「関心がある内容である」14%、「単位数を確保する」4%に分かれた。必須であるため授業に関心があると答えた学生は少ないが、調理についての関心の高さは自由表記から「新しいたくさんの技術が身につける事ができた」などの記載がたくさんあり意欲の表れたと考えられる。 ②後期の「基本の調理Ⅱ」の実習授業は前期に「調理の基本Ⅰ」を修得し、安全かつ衛生的に調理操作ができるようになったが、日常生活の中で調理に携わることが少なく調理経験が未熟なため、基本を再確認させることに努力している。 ③複雑な調理操作を体得させ、献立作成から調理、テーブルセッティング、食卓作法まで修得し、調理全体が上達することにより成功体験から調理に関する全てのことに興味を持たせ、実習授業だけでなく日常的に調理に関心を持つように進めている。 ④週に1回の実習授業のため、実習前には、図書館で調理用語などについて予習をし、実習後には、復習の意識を高める為に授業で学習した料理を自宅で調理し、調理が日常的な行為であることを体得させることに努力をしている。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		やや達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	①調理実習授業である為、定期試験ではなく毎回のレポート等を課題としている。学生全員が15回のレポートを提出し、最終的な成績としては、平均値は84点で標準的レベルに達したが、その中で理想的レベル(概ね90点以上として)に達しているものは17名で全体の56%であった。 ②学生による授業評価アンケートから、知識理解 (DP1) に関しては、平均値4.2、中央値4.0で調理の知識を確認、修正したり新たに得ることができ、それぞれの学生の自信に繋がったと考えられる。また、意欲関心に関しても、「基本の調理Ⅱ」の学びを深めたいと意欲がでてきたことが窺える。そして、技能表現 (DP5) に関しては、平均値4.1、中央値4.0で調理技術やおもてなしができる表現力が身につく、調理に関するトータルコーディネートが出来ることは学生の自信に繋がったと考えられる。 ③学習量の評価の課題以外に取り組んだ学習として「家で料理をした」6名や「おせち料理やお雑煮を作った」1名の学生が記述しており、日常的な「調理の実践」の大切さを修得したと思われる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目」の後期に行う調理実習の「応用科目」とし調理に関するトータルコーディネートを修得する重要な位置づけとしての必須科目である。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 到達度自己評価から、学ぼうとする専門分野で必要となる技術の修得ができたと思う。また、これを用いて創意工夫し、自分なりの表現力を高められたとする評価が多かった。内容的には妥当と考える。 ③まとめ 以上から、内容的には妥当であったと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について	
授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	①授業の質の評価では、いずれも平均点で、4.0～4.2と大きな課題はないと思われる。 ②調理は実習授業の為、必ず師範の調理見本操作を視覚を通して理解させることに努力してきた。特に実習中は机間巡視を行い各班の理解度を把握したり、質問や手助けが必要な学生に適切な調理操作を説明し、コミュニケーションを図ってきた。今後も安全かつ衛生面に留意し、授業を進めていきたい。 ③学術データベースの利用者が少なかった。図書館の利用については、毎回の課題レポートに図書館の図書で調べることを課題にしている為、利用者が83%と多く図書活用者を更に拡大したい。 ④学習量の評価における、個別コメントにおいても、家庭で実際に料理を作ったとの記述が多数見受けられ、「衣食住における基礎的な生活技術」を得てそれを自分の創意を加えて実践できている学生もあり、授業の進め方も概ね妥当と考える。
7. 総括的評価と来年度に向けての課題	
達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	①本授業は、必須科目であり、後期に行う調理実習の「基本からの応用」とし調理に関するトータルコーディネートを修得する重要な位置づけである。 授業の達成度自己評価においても、概ね平均値4.0～4.2、中央値も4.0であり、期待した修得ができたと考える。 ②実習などを通じてDPにある、衣食住に関する基礎的な生活技術を修得し、今後のみずからの生活に創意を加えて活用することについても概ね達成できた。（授業以外の家庭での料理の実践など） ③今後の改善点として、授業以外でも、学生の食に関する質問を受ける場を増やし工夫していきたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	生活創造学科
氏名	富田 純史

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
食品学	1	後期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1. 食品学の講義は選択のため学生の受講動機や学習背景が様々である。このため本講義では、食品に関する総論的・各論的知識はもとより食環境と健康（健康維持・疾病予防）における重要性について、学生ひとり一人が興味をもてるようになることを大切にしている。 2. 抽象的な講義にならないように、身近でわかりやすい配布資料に加えパワーポイント・ビデオなどの視聴覚教材を準備した。 3. 講義時間の配分に留意し、（１）前段、（２）配布資料と黒板による説明、（３）視聴覚教材による補完説明、（４）講義関連事項に関する疑問やコメントへの回答と説明を行った。 4. 講義関連事項に関する疑問・コメントについては、講義直後に整理分類し、口頭だけでなくパワーポイントなども作成して次回での回答・説明に備えた。 5. 昨年度までの関連講義を参考にした改善点としては、講義中に学生への質疑を加えるようにした。 6. 授業評価においては、単なる食品に関する知識だけでなく本講義を通じて“健康との関連性”についての理解をみた。このため、定期試験だけでなく全講義の後に実施していたコメントカードの記載内容にも重点をおいて評価した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	1. 定期試験の結果は大部分の学生が80点以上の満足すべき結果を示した。 2. 早朝からの講義にも拘らず、欠席・遅刻がほとんどなく本講義への興味の向上を示した。このため、登録学生で失格になったものはいなかった。 3. コメントカード記載内容は、講義の進行とともに量的・質的に増加し、講義内容関連事項への質問・コメントも増加した。 4. 学生による授業評価においては、一部に予習・復習が不足している学生の存在が示された。次年度において本講義は担当しないが、将来機会があれば、関連資料の収集やまとめなどのテーマを与えることを検討したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	1. CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本講義は教養として選択、学科横断的位置づけにあるため、学生の本来の興味や教育背景が異なる。このため、他の関連講義と補完するところの“食品（一部、調理を含む）に関する知識”だけでなく、“健康”の大切さを様々な角度から考え理解させることが望ましい。全学生の出席率だけでなく各講義後のコメントカードの記載内容、定期試験結果には満足すべきものがあり内容的に妥当であったと評価する。 2. DP、行動目標からみても内容的妥当性 講義内容に興味をもつことにより専門的な知識も増加していることが各講義後のコメントカードの記載内容、定期試験結果に示されており内容的に妥当であったと評価する。 3. 以上により、本講義の内容的妥当性には問題ないと思う。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	1. 授業の進め方については、各年度での結果をもとに改善してきたことにより一定の自己評価をしている。 2. 入学年度により学生の志望動機、教育背景と在学後における将来への希望が多様化している。このため、将来本講義担当の機会があれば、教育内容のレベル設定にはさらに工夫を行いたい。即ち、全体として視覚的にもわかりやすい構成の中により詳細な専門的なものを加えて行きたい。 3. 予習・復習については同様に機会があれば他の必須科目の単位取得、資格試験準備などを考慮し身近な材料を取り上げて実施させるようにしたい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本講義は、学科横断的教養選択科目であるが、他の専門科目への学習意欲の向上と知識・理解の補完となるように設定している。講義中のコメントカード記載内容と定期試験結果から、これらの目標は概ね達成できたと総合的に評価している。しかしながら、入学年度により対象となる学生の志望動機、教育背景と在学後における将来への希望が多様化しているため、講義開始直後に各学生の講義への反応を注意深く観察することでその後の講義内容へ反映させることが重要だと考える。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	生活創造学科
氏名	加来 卯子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
服飾基礎Ⅱ	1	(前期)後期	必修	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1年後期の必修科目（実習）である。 本講では、前期科目「服飾基礎Ⅰ」の学びをもとに、ものづくりの面白さ、大切さをさらに深めていくことを目的とする。 小中高の授業および家庭生活において、被服製作の経験が少ないため、前期と同様、各回、プリントおよびサンプル（段階標本）等を準備した。 全体的な説明を行った後、少人数のグループ別に実習指導を行った。教育支援職員とともに机間巡視を行い、質問に対応するとともに、常に学生個々の状況を把握した。また、学生一人ひとりと向き合うことで、各回の目標を達成できるよう指導した。 授業の最後には、毎時、振り返りを行い、次回までに進めておくべき課題を確認した。 次回までの課題を実施するにあたり、時間外の指導を希望する学生には、個別に対応した。 課題を提出し、達成感を得ることにより、2年次の実習へとつながるよう努めた。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講者は、ほとんどが標準的レベルに達し、理想的レベル（概ね80点以上）に達した学生も多くみられた。知識理解に関しては、個人差が生じているが、個別対応により、やや達成されたと思われる。これらは、教育支援職員によるきめ細やかな学生対応が反映された結果といえる。意欲関心に関しては、初年次の実習であるためか、ほとんどの学生が意欲的に取り組む姿勢をみせていた。各自の体型、好みに合った作品を製作することにより、その姿勢はより強化された。技能表現については、日を追うごとに上達を感じられ、丁寧かつ前向きに取り組むなど、積極的な姿勢が伺えた。また、学生のレポート等からは作品を完成できたことへの達成感、喜びが感じられた。 学生による授業評価においては、期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった、とする学生が多く、実習であるため目標設定が比較的容易であったことが伺える。試着および写真撮影を通して、互いの作品を鑑賞しあい、次年度の製作に関わる授業への足掛かりとなったと言える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容の妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「専門必修科目」であり、2年次に学びを進めるための基礎科目である。 生活を営むうえで必要な知識および技術に関する内容も含まれている。1年前期「服飾基礎Ⅰ」に続く科目であるため、授業内容への取り組みは前期と比べてスムーズであった。 授業回数を重ねていく毎に実習への関心の高さや自ら考えようとする力が増していくため、授業内容は妥当であったと考える。 今後も、個別の対応を進めながら、丁寧な指導を心掛けたい。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生の意見として、今まで製作に対し馴染みがなかったが楽しんで取り組むことが出来た、ミシンの使い方がよく分かった、改めて楽しいと思った、縫うことが好きだということが分かった、など、授業による気付きが見受けられる。
「服飾基礎Ⅰ」（前期）で、授業を時間内に終わってほしいとの意見が見られたため、本授業は定刻で終了し、その後、対応を希望する学生へ指導を続けた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

基礎的知識および技能については概ね達成できたが、少数の学生については課題を残している面も見受けられた。
授業の性格上、学生とじっくり向き合うことが大切であるため、時間配分も含め、今後、検討していく必要があると思われる。
配布物、提示物等を、わかりやすいものにし、個々に学べる体制をつくることの重要性も感じられ、2年次の実習に向けて改善していきたい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	生活創造学科
氏名	中井 明美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
服飾基礎Ⅱ	1	(前期)後期	必修	はい	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	① 前期で行った実習を通してある程度の被服製作技術を身につけさせることができたので、さらなる向上に期待した。 ② 前期とは異なる実習ではあるが、後期はさらに興味を持って、学生の製作能力を向上させることを目標にした。 ③ 前期同様、大作でなく2、3時間で仕上がるような作品を作ることにより、基本的な能力を身に付けさせる。全体を半分に分け、教員を交代して少人数での指導により、学生に自信、意欲を持たせて作品を製作・完成させることにした。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	この科目は2人の合計で点数を付けているので、あくまでも中井担当分のみの点数を記載する。 最終的な平均値は43.8点(50点満点)であり、再試験当者は0名であったが、出席の足らない学生2名が再履修となった。ただ作品の仕上がらない学生に対しては、補講日をあて、作品を完成させた。再履修者を除いて全員が作品を仕上げ、最終目標は達成できたが、作品の出来具合、仕上がり内容は点数には反映していない。重視したのは作品作成時の態度、説明をきちんと聞けて間違いなく出来ているかであった。今年度で学科が終わるので、次年度への検討事項はない。 全体を通して、知識の理解、技能表現は達成されたと考え、意欲関心も高かったと評価した。 学生による授業評価において課題以外の学習に取り組む姿勢が少ない理由として、実習時間が135分で少なく、家でする宿題が多くなってしまっているため授業の作品だけで余裕がなかったと考える。 担当教員の方で情報を十分に行っているため、図書館に行く必要性はなかったと考えるが、実習で行う以外の作品などの情報を得るためにも図書館を利用するように仕向けるべきだったと反省している。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「専門基礎科目」であり、専門応用科目へと結び付けていく能力を身に付けることができ、学生も一定の成績を収めているので、内容的には妥当であったと考える。学生がはじめての経験も踏まえて、経験できたことは次へのステップになると考えられ、将来に向けてもこの経験を活かさせていってくれたら、光栄である。 前半と後半のクラスを比較すると、教える方にも経験が生かされたこともあり、後半の方が授業がスムーズに進み、教え方を工夫し、時間内に全員が終了することができた。前半のクラスに2人も再履修者を出すことになって、はじまる授業時間の問題があるかもしれないが、指導不足であったと反省している。 全体として、内容的には作品の数も多くなく、妥当であったと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質評価で「授業中に自分の意見をまとめる…」などの項目が低かったが、この科目は与えられた課題をすることが第一であるので、自分の意見を言うことはない。しかし中身に関しては「柄、色など」は自分の好みで決めるので、そこでは自分の考えを出せるはずなので、学生の評価とは少し食い違う気がする。説明の仕方にもっと工夫すべきであったのかと反省をしている。 学生の意見に「することがわからない」というのがあったが、学生に余裕がなく（時間、能力を含めて）課題を作成する以上のことが、できなかったと考える。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	基礎知識として実習を通し、身に付けることは今後の生活にも生かせ、学生がもっと真剣に取り組むとさらに成果は上がると考える。手を動かすことで、何度も失敗を繰り返し、覚えていくこともあるので、今回はこれで終わりであっても将来きっと役に立つ科目であったと考える。今年で終わる科目であるのが非常に残念である。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度後期

学科	生活創造学科
氏名	加来 卯子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
衣生活論	1	後期	必修	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	1年後期の必修科目である。 科学技術の発達により天然繊維に加え新しい素材が次々と開発され、衣生活豊かになりは多様なデザインの既製服を容易に服を入手できるようになった。一方で、様々な問題も生じている。授業では、まず、素材についての認識を深めるため、各回の導入として各自の衣服の素材、原産国等を確認し、着心地の良さについて確認するよう促した。 身近に存在する衣服と人体との関係について認識させ、関心が持てるよう授業を進めた。 レポートや提出物を通して、学生と教員相互の関わりを構築した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	受講者の多くが標準的レベルに達し、理想的レベル（概ね80点以上）に達した者もみられた。オリエンテーションにおいて、授業の概要、評価について説明した。 知識理解、技能表現については、概ね一定の基準に達していることが伺える。到達度自己評価では、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」「事象を理解する視点や考え方を得ることができた」では、肯定的な回答が比較的多くみられた。授業における学生たちの反応はやや積極的であった。本年度の成果が次年度の関連科目へ反映するよう検討したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「専門必修科目」であり、本学科で学びを進めるための基礎的な科目である。生活を営むうえで必要な知識を習得し、実生活へ応用する力が必要である。着衣について毎時確認を行いレポートを作成することにより、関心の高さが徐々に増していく様子が伺えた。自己の衣服を材料的、衛生的側面からとらえ、人体と被服との関連性を考察することができ、内容には妥当であったと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業はパワーポイントによる説明の他、動画等を用いて行った。
また、新規の用語や図を調べる際に、コンピュータによる検索を行った。
与えられた課題について、自ら考え進める姿勢を養うことができるよう、授業の進め方に一層の工夫が必要である。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

専門基礎科目にあたる位置づけから、知識理解については概ね達成できたが、少数の学生については課題を残している面も見受けられる。本科目は学生自身に関する身近な課題も多く含まれているため、より多くの学生が興味を持ち、理解できるよう授業の流れについて再度検討したい。

リフレクションカード 2016年度後期

学科	生活創造学科
氏名	戸田 由美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
地域の技と文化	1	後期	必修	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	×	○	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	地域（九州）でご活躍のそれぞれ有名な方々の講義であるうえにものづくりという地域の技という文化的色彩の濃い内容であるので、何よりもまず、学生の心構え・・・受講目的・・・講義の意義等々を説明し、現代社会に生きる一人間として大切なものは何かを思い出すための価値認識について指導した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された			やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	講師の方々の入念な準備とご指導により、当初は60%から始まり、徐々に90%あたりまで伸びていたようである。内容によっては得意、不得意もあるが、表現のコツ、技術的テクニックなど、学生もプロ直伝の妙に非常に満足していたようだ。集中できたように思う。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	カリキュラムマップ等々における本科目の位置づけからみた内容的妥協性はよかったと思われる。
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

あくまでもオムニバス形式の授業であるので、15回全てを相対的にみたとき、統一感ある内容展開となっていることと、ものをつくることの意義と価値を理解することが出来たのではないかとと思われる。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

単なる製作でなく、そこにある日本的文化、人の心、作成プロセス材料等々、全ての細やかな条件と環境が浮き彫りにされ、学生の心にあらためて、技と文化がつながったようであった。有意義であったと考えている。